

生成AI時代における知的財産部門の戦略的変革と導入ロードマップ

オムロンおよび島津製作所の事例比較分析から導く、コストセンターから戦略的プロフィットセンターへの移行パラダイム

OMRON

SHIMADZU

構造的課題の克服とパラダイムシフト

従来型：コストセンター

特徴: 労働集約的・属人的

膨大な特許調査、専門用語の明細書作成、FTO調査による時間とコストの消費。

膨大な特許調査、専門用語の明細書作成、FTO調査による時間とコストの消費。

膨大な特許調査、専門用語の明細書作成、FTO調査による時間とコストの消費。

手続きの代行機関・防衛手段



AI駆動型：プロフィットセンター

特徴: データ駆動型・超高速処理

瞬時な特許公報解析

自動文書生成

クロスリンガル検索

経営戦略に直結するインサイトを
提供する「戦略的参謀」

OMRON：全社的組織変革の軌跡



コア戦略：ボトムアップ型・文化主導

全社横断プロジェクト「AIZAQ」を通じた
「人づくり・組織づくり」と極めて堅牢な
閉域ネットワークアーキテクチャ。

SHIMADZU：商用市場への破壊的展開



コア戦略：トップダウン型・専門家主導

ベテランの暗黙知を「プロンプト」として
資産化し、SaaSプラットフォーム「Genzo
AI」として外部市場をディスラプト。

共通の目的：知財専門家を「作業者」から「戦略家」へ引き上げる

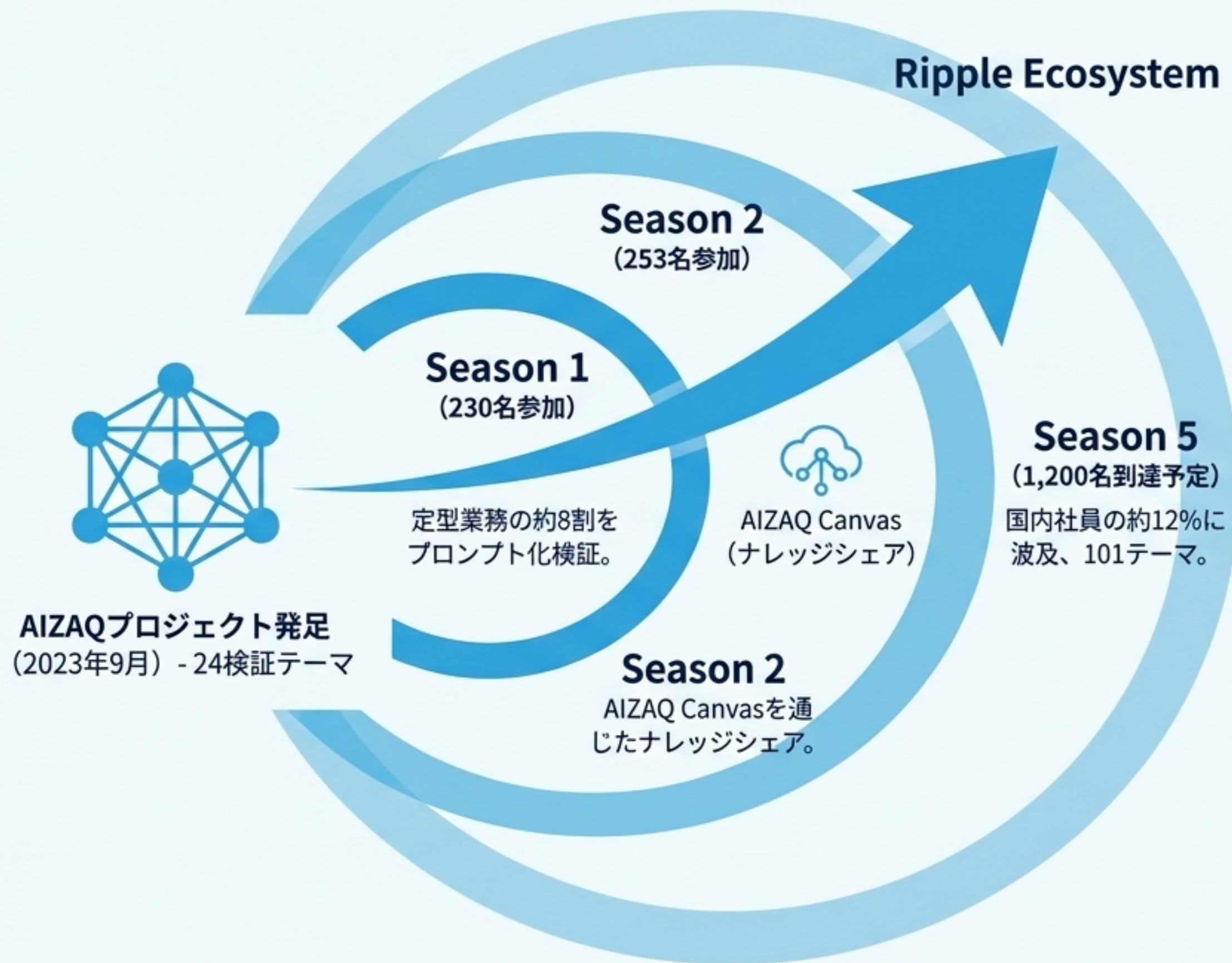
WILLを原動力 とする変革

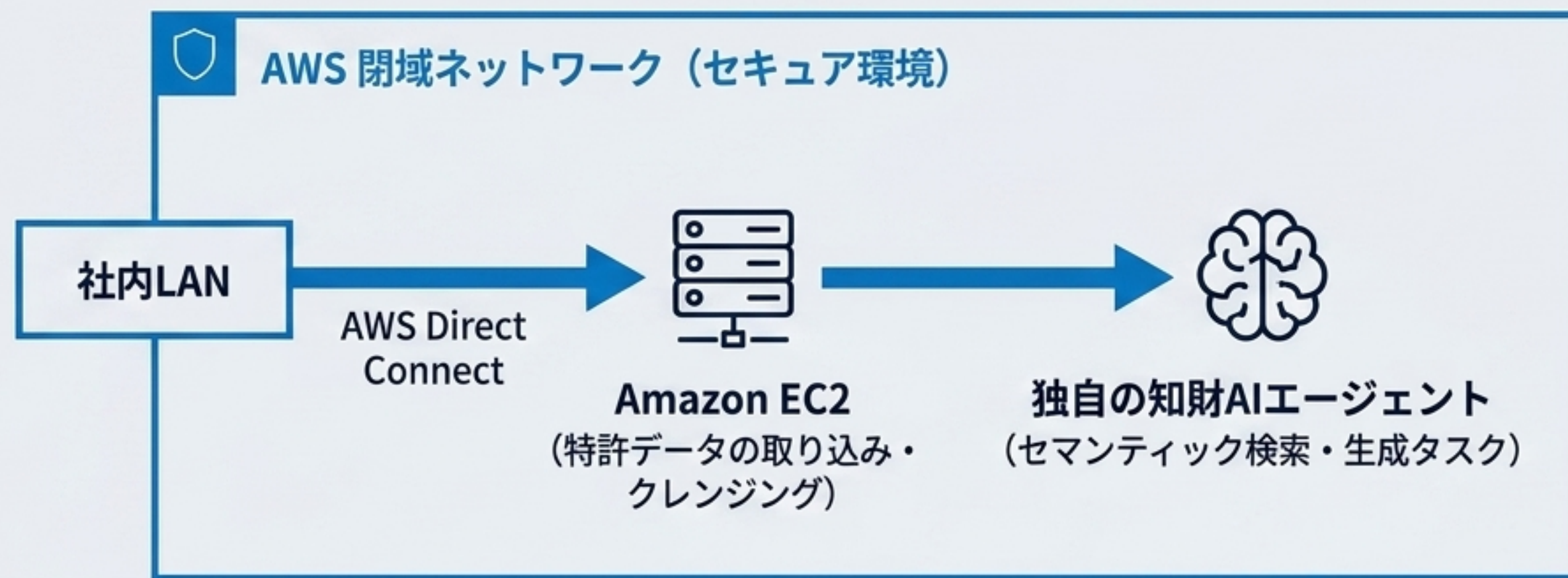
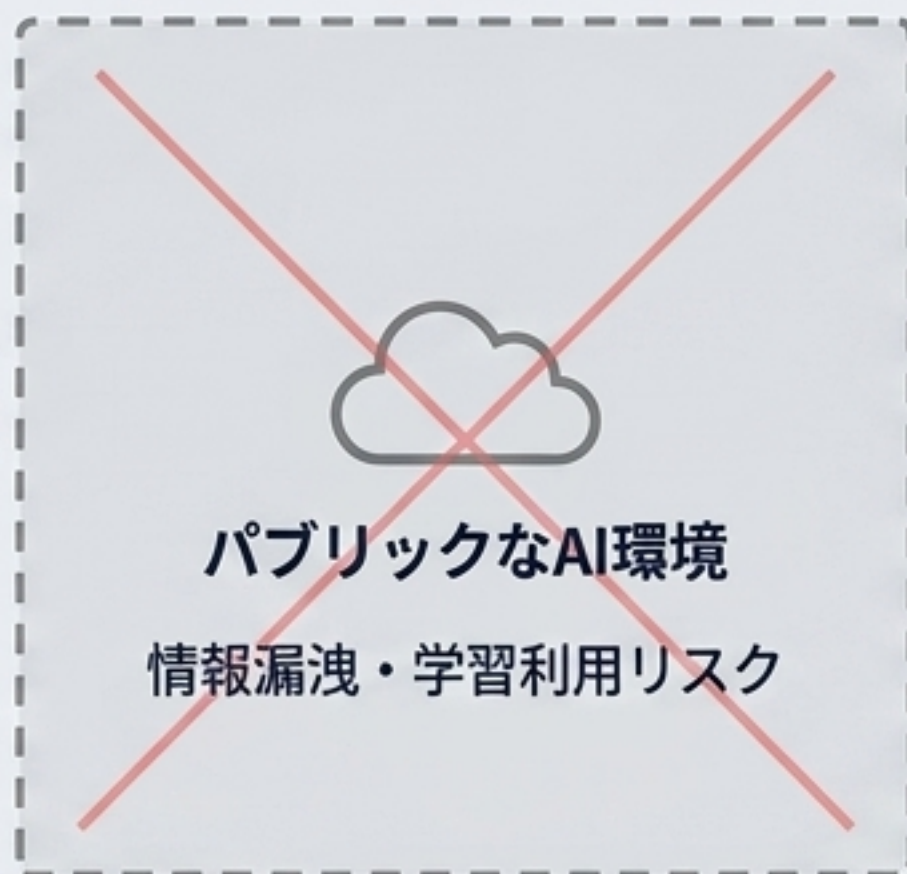
起点

SF2030ビジョンと経営層の
強い危機感

推進体制

WILL（意志）を原動力とした
フラットなチーム結成（部署や
役職に関係なく自発的に参加）





セキュアなインフラ

インターネットを介さない通信経路で
機微データを物理的・論理的に遮断。



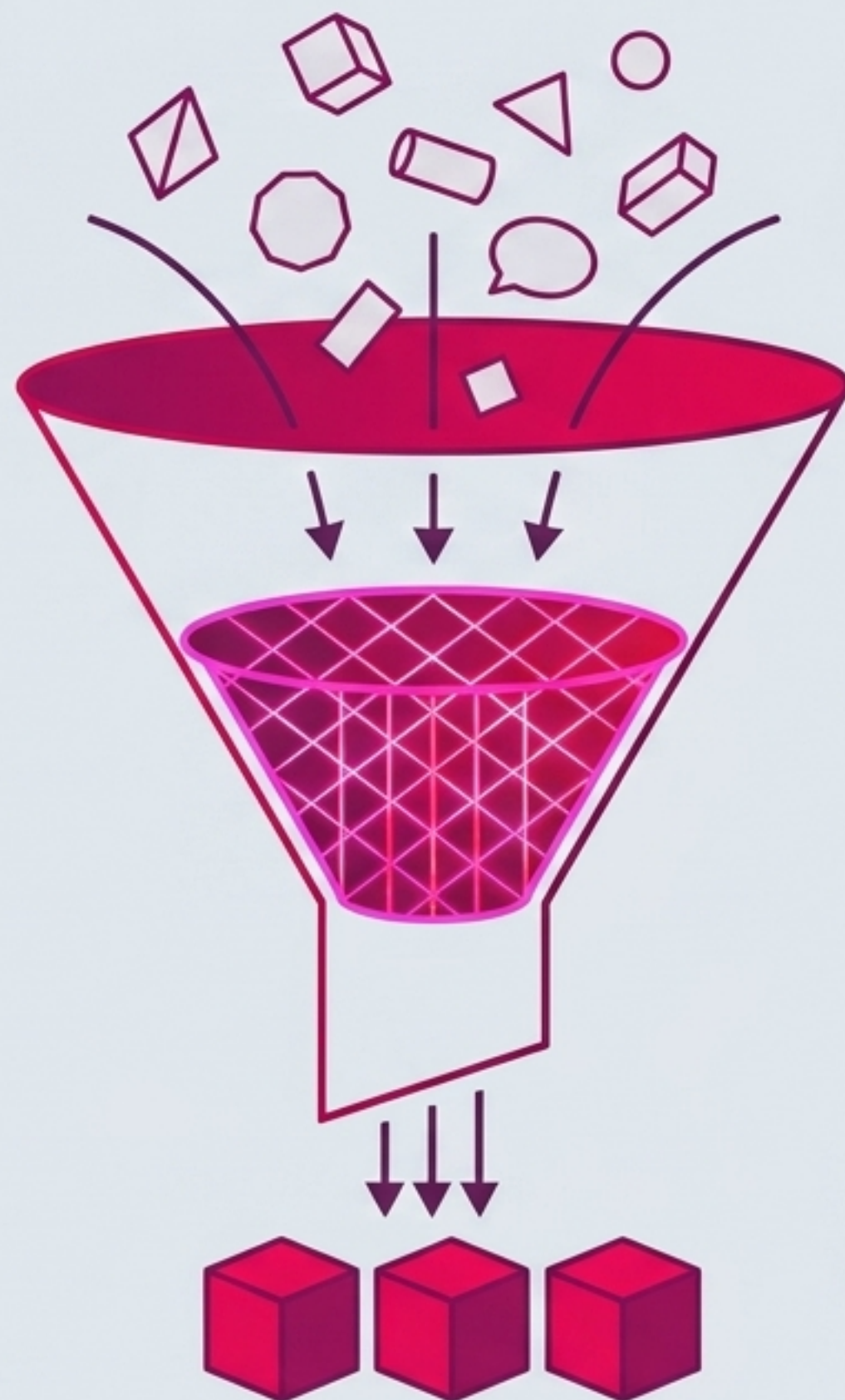
継続的チューニング

自社特有の技術用語に対応する
モデル最適化。



ガバナンス

AI方針の策定と
「AIガバナンス委員会」の設置。



ベテランの暗黙知

(高度な専門性・個人の
検索ノウハウ・判断ロジック)

徹底的な言語化と プロンプト化

(AI/Prompt Engineering)

組織全体の共有資産

(標準化・高速化・均質化
されたモジュール)

コスト削減

約8,000万円 / 年

外部委託費の劇的な内製化削減

時間短縮

数ヶ月 → 2分

難解な海外拒絶理由通知の分析を短縮

効率化

最大90%削減

FTO（侵害予防）調査の時間を圧縮

知財業務自動化SaaS「Genzo AI」による市場ディスラプト

ターゲット：少人数の中堅・中小企業、予算不足の大学・研究機関

2030年度売上目標: **15億円**

SaaS Capability Stack

[MODULE 01] 届出・出願

開発資料から明細書案まで一気通貫で自動生成

⋮

[MODULE 02] 先行文献調査

特定の技術に関する先行文献の高速調査・特許性判断

⋮

2026年4月～

[MODULE 03] FTO調査

開発中製品の他社権利侵害リスクの初期スクリーニング

⋮

[MODULE 04] 契約書レビュー

NDA/ライセンス契約の標準条項確認・代替案生成

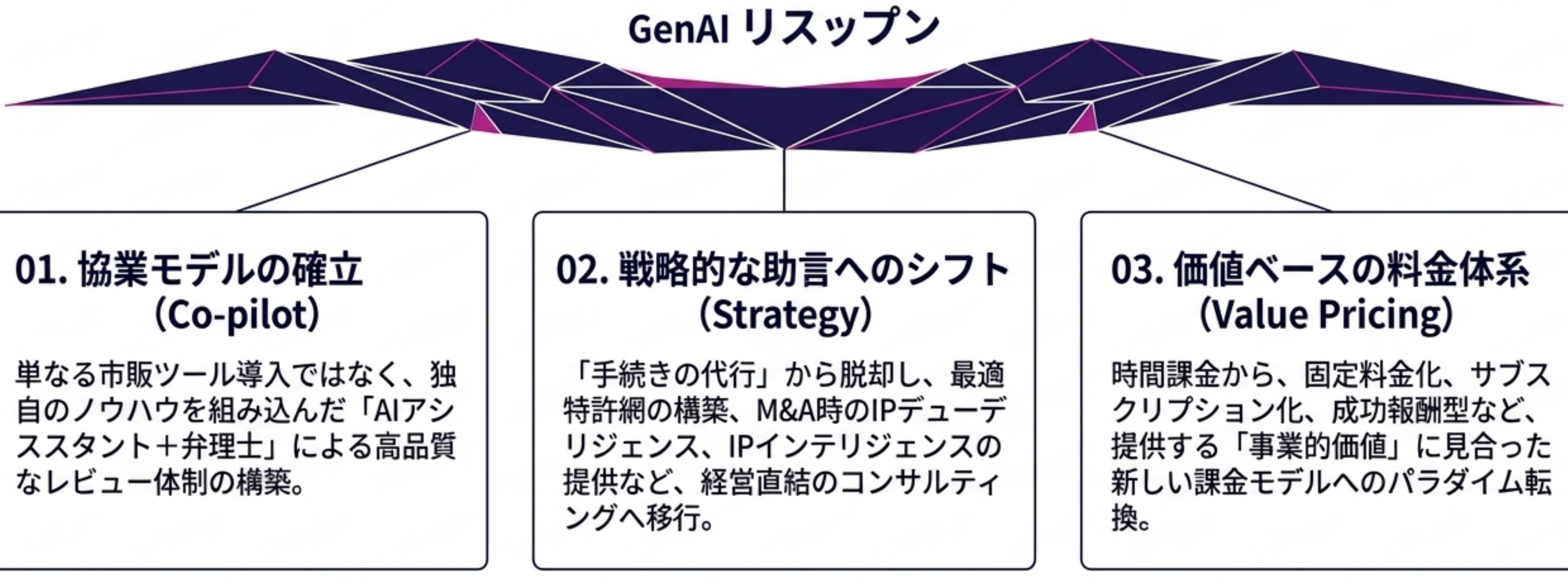
⋮

2026年夏以降～

既存ビジネスモデルの崩壊と特許事務所の「生存戦略」

定型的な代行業務への依存と「時間課金（タイムチャージ）」モデルの終焉

GenAI リスアップ



01. 協業モデルの確立 (Co-pilot)

単なる市販ツール導入ではなく、独自のノウハウを組み込んだ「AIアシスタント＋弁理士」による高品質なレビュー体制の構築。

02. 戦略的な助言へのシフト (Strategy)

「手続きの代行」から脱却し、最適特許網の構築、M&A時のIPデューデリジェンス、IPインテリジェンスの提供など、経営直結のコンサルティングへ移行。

03. 価値ベースの料金体系 (Value Pricing)

時間課金から、固定料金化、サブスクリプション化、成功報酬型など、提供する「事業的価値」に見合った新しい課金モデルへのパラダイム転換。

	オムロン（文化主導型）	島津製作所（市場破壊型）
戦略の主目的	全社的なDX推進と組織文化の変革	極限的な業務効率化とSaaS事業化による新規収益源の創出
推進体制	「WILL」ベース・フラットな全社横断組織	知財部長・ベテラン専門家主導のアプローチ
AI基盤	AWS閉域ネットワーク上の独自「知財AIエージェント」	ベテランの知見を落とし込んだプロンプト資産群
ナレッジ共有	ポータルサイトを通じたオープンな共有	専門家によるプロンプトの標準化・ソフトウェア化
対象市場	自社グループ内の業務効率化・他部門への波及	自社＋外部の中堅・中小企業・大学市場

社外商用化・SaaS展開

全社DX・
文化主導

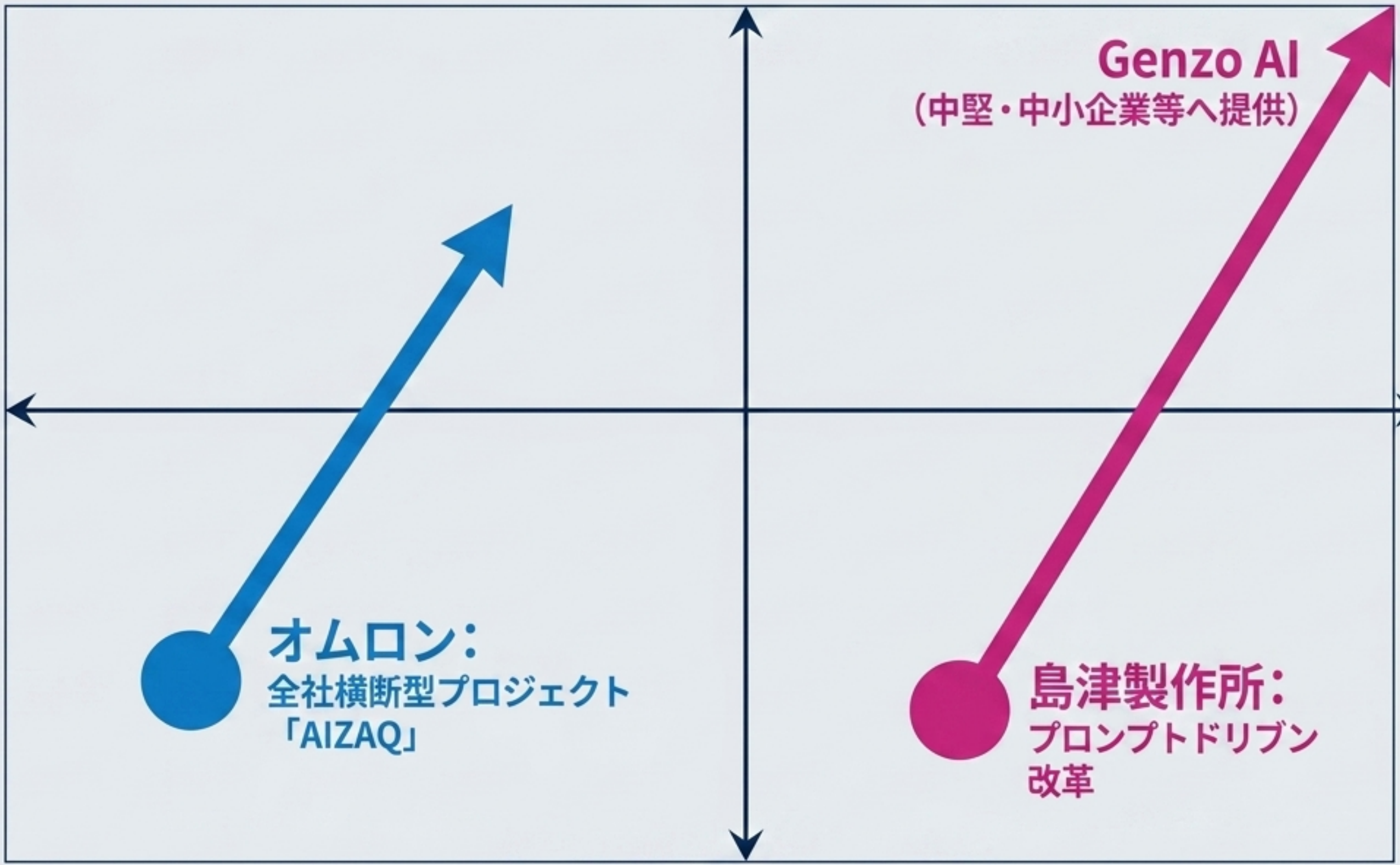
知財専門知・
プロセス主導

オムロン：
全社横断型プロジェクト
「AIZAQ」

Genzo AI
(中堅・中小企業等へ提供)

島津製作所：
プロンプトドリブン
改革

社内効率化・コスト削減



AIの役割

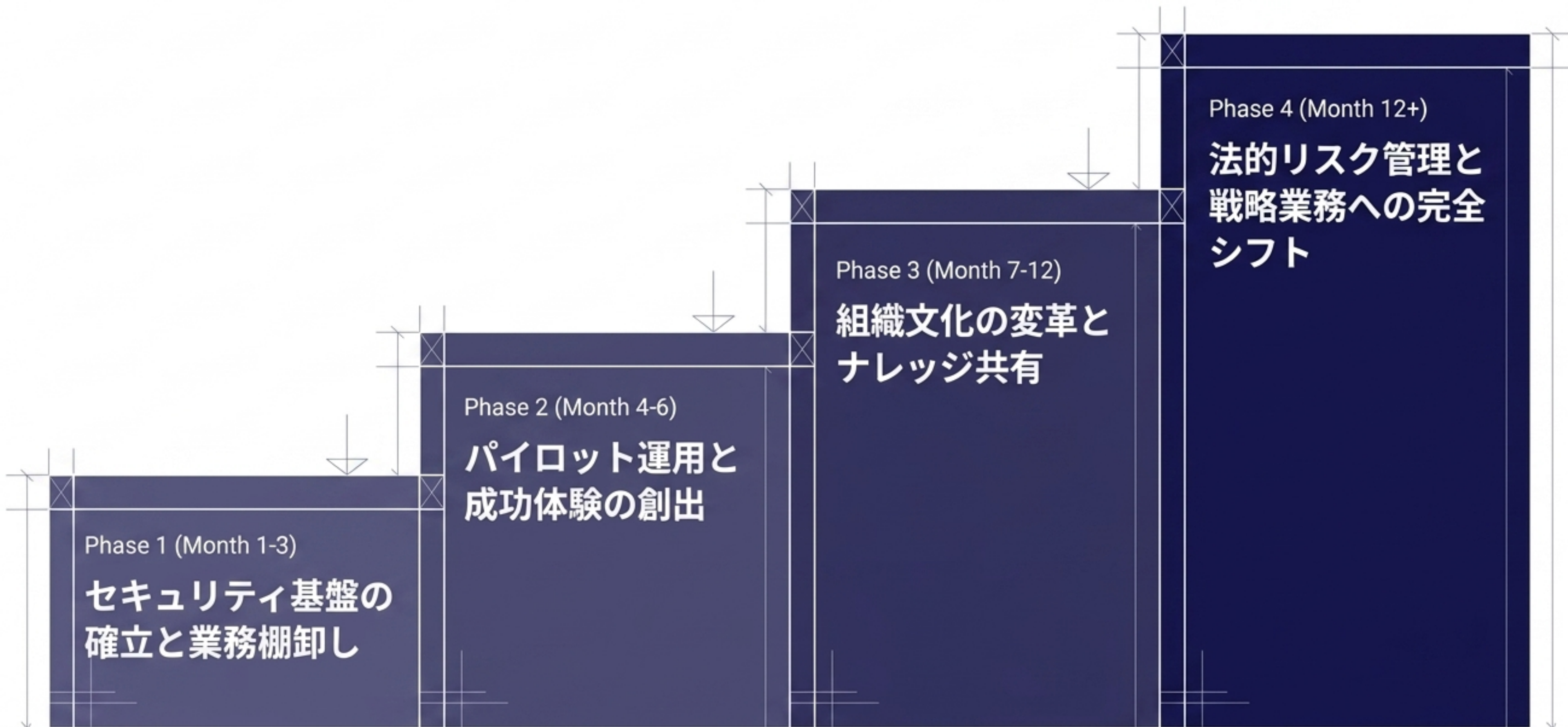
定型業務・初期調査の
徹底的な委譲

共通する本質：
AIは専門家を
奪わない、
引き上げる

人間の真の価値

- IPランドスケープ
- 経営直結の戦略立案
- 高度なクリエイティビティへの専念

知財AI導入に向けた戦略的4フェーズ・ロードマップ



※次スライド以降で各フェーズの具体策を詳解



Phase 1: セキュリティと業務棚卸し

堅牢なアーキテクチャの選定

パブリックAIへの機密データ入力を厳禁とする。

AWS Direct Connect等の閉域ネットワーク環境を構築（オプトアウト設定の徹底）。

業務プロセスをフローチャート化し、「AIの得意領域（定型業務）」と「人間の判断領域」を切り分ける。



Phase 2: パイロット運用と成功体験

スモールスタートと暗黙知の抽出

特定の技術分野やFTO一次スクリーニングなど、ターゲットを絞りパイロット検証。

優秀なベテランの思考プロセス（検索キーワード、判断ロジック）をヒアリングし、プロンプトとして標準化。

※自社開発が困難な中堅・中小企業は「Genzo AI」等、セキュアな特化型SaaSの導入から検討。



Phase 3: 組織と文化

WILLベース推進

トップダウンの強制ではなく、課題解決の意志（WILL）を持つメンバーで推進チーム（PMO）を構成。

リテラシー教育

知財部員を「書類作成者」から「AIディレクター」へ引き上げる定期ワークショップ。

ナレッジ共有

成功・失敗プロンプトをオープンに共有するWiki/ポータルサイトの整備。



Phase 4: ガバナンスと法的リスク

クリティカル課題

Human-in-the-Loopの徹底

ハルシネーション対策として、最終的な法的判断、特許性判定、契約解釈は必ず人間の専門家（弁理士等）が目視で検証・承認するプロセスを最終関門とする。

発明者適格性の証跡管理

AI支援発明における「人間の重要な貢献（プロンプト設計や検証）」を記録・証明する社内ガイドラインとガバナンス委員会の設置（USPTOガイダンス準拠）。

知財ブラックボックスからの解放と、 「IPインテリジェンス」の時代へ

生成AIは単なる検索ツールではなく、知財部門の存在意義を根底から再定義する
「戦略的トランスフォーメーション・エンジン」である。

日々の定型業務から解放された専門家が、膨大なデータを俯瞰し、自社の事業戦略へと
直結する「IPインテリジェンス」を発揮すること。それこそが、激化するグローバル競争
において確固たる競争優位性を構築する唯一の道である。

戦略的ロードマップを実行し、知財部門を次なる次元へ。